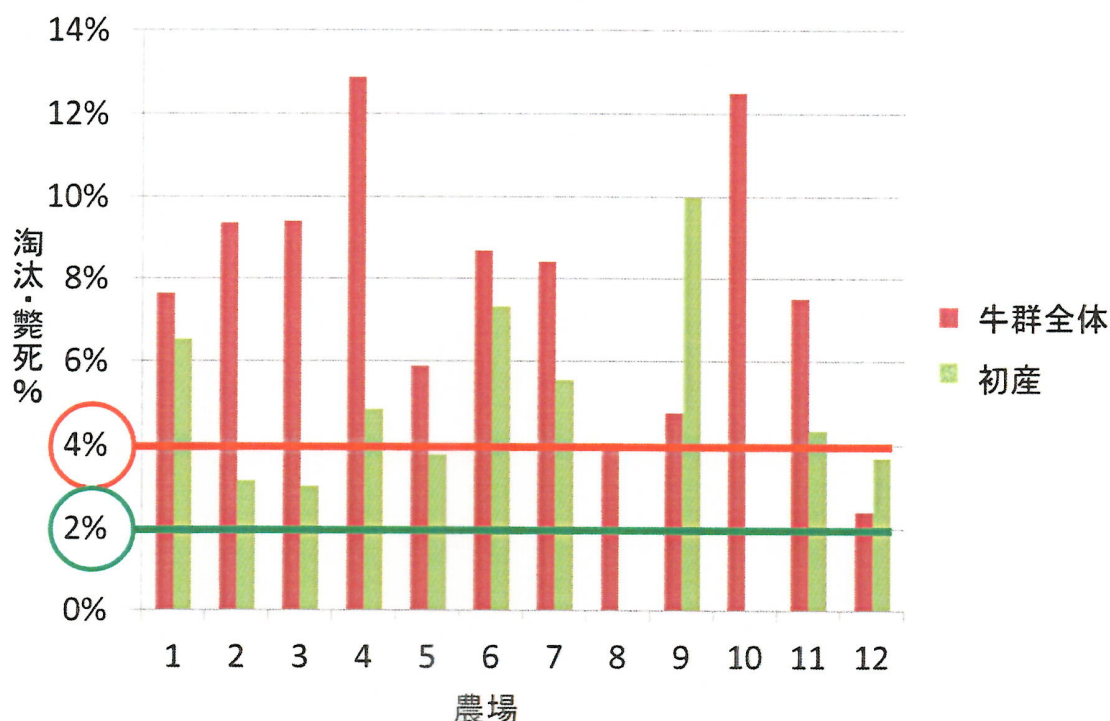


～ データから見る移行期管理の現状 ～

今回は私が繁殖検診で携わっている農家さんの移行期データをご紹介します。

◇ 各農場の移行期疾病率

分娩後 60 日以内の淘汰・死産率

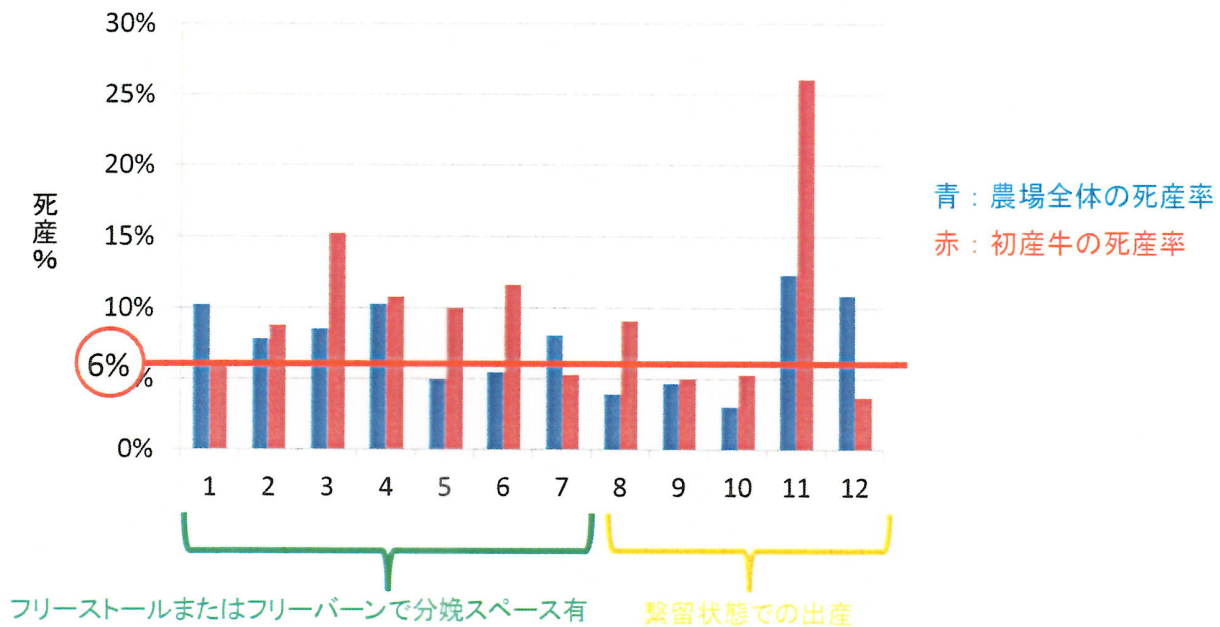


農場で起こる乳牛の全トラブル（四胃変位・ケトーシスなどの周産期病、乳房炎、蹄病など）の 75%は分娩後 1 ヶ月以内に起きると言われていますが、そういった分娩後の乳房炎や周産期病が問題となっている場合、分娩後 60 日以内の淘汰率は非常に高くなってきます。

これは屠場や市場に出した淘汰も含まれているので単純に乾乳管理に伴う分娩前後の事故率で数字が上昇していくわけではありませんが、分娩後 2 か月以内に屠場に出してしまう牛というのは周産期にトラブルがあったケースがほとんどでしょう。当然低い方が良く、万一淘汰されている牛の内容が斃獣処理場行きによる死産が大半を占め、それが **10%を超えているようなら大問題**です。分娩した牛の 10 頭に 1 頭が乳代を稼げていません。**目標は 4%以下**です。また**初産牛の分娩後淘汰率が高い（5%以上）のはさらに重症**です。2 年間手塩にかけて育ててきた牛が分娩後すぐに淘汰される……悲しいですね。初産牛の**目標は 2%以下**です。分娩後すぐに淘汰される原因の主な一つにはお産次の事故でしょうか？

ではこれらの農場の死産率を見てみましょう。

死産率



死産率の目標は農場全体で **6%を目標** にしています。初産牛はやはり経産牛と比べると分娩事故が多い傾向にはあるようです。

意外なことに分娩管理として良いとされている「フリーストールまたはフリーバーンでの出産」が「つなぎ状態での出産」と比較するとやや死産率が高いようにもうかがえます。もちろんデータが少ないのでこれだけでは何も結論付けられませんが、つなぎ状態で分娩させている農家さんの方が分娩の近い牛の分娩徴候をしっかりとモニターしている農場が多いからかもしれません。逆に、フリーストールまたはフリーバーンで分娩させている農場ではお産の監視体制が整っていないため、難産になってしまいがちな農場も散見されます。牛にとって良い環境を提供できても管理できなければ結果が伴ってこないのです。

一年の締めくくりに今年のデータをおさらいしてみて、来年の飼養管理目標を立ててみると良いかもしれません。